

# 絵本となかよし

図書館員のおすすめの絵本



長泉町民図書館

ちよどいいが いちほんいい Nagaiyomi

# 子どもと絵本を楽しみましょう

絵本の読み聞かせは、絵本の楽しさだけでなく、読んでくれた人のぬくもりや、同じ絵本を楽しんでいるという満たされた気持ちも、お子さんにもたらしめます。

新しい絵本は毎年たくさん出版されますが、長泉町の図書館員が、それぞれ大好きだった大事な絵本を、今回ご紹介します。

大好きな絵本は、お子さんにとって、なかよしなおともだちと同じです。

なかよしなおともだちには、毎日でも会いたいもの。

なかよしな絵本も毎日でも、読んでほしいものです。

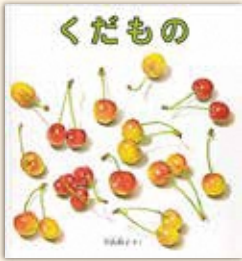
「もうっかい！」と言われたら、また読んであげてください。

そのひとときは、お子さんが大きくなった時、宝物のような思い出になります。

このリストの中から、お子さんのなかよしなおともだちが、見つかりますように願っています。



## 初級編



平山 和子 / さく 福音館書店

### くだもの

みずみずしくくだもの絵は本当に、そこにあるかのような美しさです。

「さあ、どうぞ」というと、子ども達は手をだしてくだものを取りモグモグします。

おいしそうなくだものは、みんな大好きなんですね。お子さんの初めての絵本におすすめの一冊です。平山和子の絵本はほかに『やさしい』や『おにぎり』もあって、同じようにおすすめです。



片山 健 / さく・え 福音館書店

### おやすみなさいコッコさん

お空の雲も、池の水もみんな眠ってしまった夜おそく、ちいさな女の子・コッコさんだけはまだ起きています。「おやすみなさいコッコさん」とお月さまが語りかけますが、コッコさんは「コッコはねむらないもん」と言って眠ろうとしません。

眠れない子どもを咎めるのではなく、やさしく語りかけるお月さまが印象的な一冊です。おやすみ前の読み聞かせにおすすめです。



にしまき かよこ / え と ぶん  
こぐま社

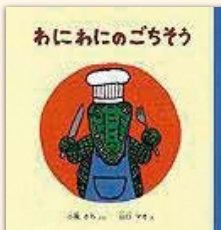
### わたしのワンピース

まっしろいわたしのワンピース。

ララン ロロン お花畑を散歩すると、あれ？ワンピースが花模様。

ララン ロロン 雨の中を散歩すると、あれ？今度は水玉模様になっちゃった。

散歩を続けていくとワンピースの模様がどんどん変わり、次はなんの模様になるのかとわくわくした気持ちになれる本です。



小風 さち / ぶん 山口 マオ / え  
福音館書店

### わにわにのごちそう

お腹が減ってしまったわにわには、台所で料理をはじめます。エプロンをして大きなお肉を焼き……がぶり！

わにと言えば怖いイメージなのですが、わにわにはエプロンをして料理をし、盛り付けまできれいにこなします。出来上がったお肉を大きな口でがぶりと行くシーンが見どころ。文章が短く楽しい擬音も多いので小さい子におすすめです。

## 中級編

### ラチとらいおん



マレーク・ペロニカ / ぶん・え  
とくなが やすもと / やく 福音館書店

ラチはよわむしな男の子です。ある日、小さなぬいぐるみのらいおんが現れてラチを励まし、ラチはだんだん強くなります。だんだん強くなったラチにらいおんは手紙を残して去っていきます。手紙を読むラチの大粒の涙が印象的です。

### きょうはなんのひ？



瀬田 貞二 / 作 林 明子 / 絵  
福音館書店

ある朝、まみこがおかあさんに仕掛けた手紙探し遊び。家中に隠された手紙を見つけていくお母さんが最後に見つけるのは何でしょう？ページをめくるたびに、お母さんと一緒に手紙を探しているようなわくわくした気持ちになり、最後には思わず「なるほど!」と思ってしまいます。幼い頃、この絵本の真似をして手紙を隠そうとしたことがありましたが、この絵本を読んだら誰もそのような真似をしなくなってしまうような魅力が詰まっています。

### しずくのぼうけん



マリア・テルリコフスカ / さく  
うちだ りさこ / やく  
ポフダン・ブテンコ / え  
福音館書店

バケツから飛び出した水のしずくは、ひとりぼっちで長い旅に出ます。裏庭から始まり、クリーニング屋、病院、雲の上……と様々な場所でしずくの冒険は続いていきます。可愛らしいしずくと、心地の良いリズムで進んでいく文章が特徴的です。自分が蛇口をひねって出した、目の前にある水も長い旅を終えてここまでやってきたのかもしれない、と思いをはせることができる一冊です。

### はちうえはぼくにまかせて



ジーン・ジョン / さく  
マーガレット・プロイ・グレアム / え  
もり ひさし / やく ぺんぎん社

夏休み、お父さんの仕事が忙しくてどこへも旅行に行けないトミーは、近所の人たちの鉢植えを預かって世話をするアルバイトを始めました。預かった鉢植えの植物たちは、トミーの上手なお世話のおかげで、ぐんぐん成長していきます。トミーが鉢植えのお世話を始めたときには、迷惑そうな顔をしていたお父さんの表情の変化にも注目です。大人にとってはくだらない、つまらなく感じるものであっても子どもの手にかかれれば素敵な出来事へと変わっていきます。



アーノルド・ローベル / 作  
三木卓 / 訳 文化出版局

### ふたりはいっしょ

がまくんとかえるくんを主人公にしたユーモラスな友情物語です。性格は違いますが、ふたりはとても仲良しです。クッキーを食べたり、花を育てたりする、何気ない日常が、ふたりにかかる楽しくて笑いの絶えない一日になります。

ふたりののんびりユーモラスなやり取りは、ほのぼのとしていて和みますが、「予定表って必要?」「意志力とは?」など学ぶこともあります。お互いを思いやる事が出来る友人関係っていいな、としみじみと思える絵本です。



いわむら かずお / さく 童心社

### 14 ひきのあきまつり

14 ひきのねずみの家族は、秋の森へ出掛けました。お母さんたちは、きのこ採り、子どもたちはかくれんぼです。

可愛いねずみの家族と秋の森の様子がとても素敵です。自分もねずみの家族の一員となって、森の中へ出掛けている気持ちになります。

『14 ひきのひっこし』を1作目として、他にも『14 ひきのあさごはん』『14 ひきのやまいも』などのシリーズがあります。



エドワード・アーディゾーニ / 絵  
エインゲルダ・アーディゾーニ / 文  
なかがわ ちひろ / 訳 徳間書店

### つきよのぼうけん

子どもが大きくなり、捨てられてしまったおもちゃの人形たちは、おんぼろ機関車に乗って新しいおうちを目指します。機関車の旅はとっても楽しい!でも、冷たい風が吹いてくると、3人は次第に暖かなおうちが恋しくなります。はたして新しいおうちは見つかるのでしょうか?

おもちゃたちの生き生きとした描写が印象的で、自分のおもちゃに愛着を持てるようになる楽しい物語です。



田島 征三 / 作 偕成社

### とべバタ

小さな茂みの中に、一匹のバッタが隠れ住んでいました。そこには、おそろしいものたちがいて、バッタを食べようと狙っていました。バッタは、びくびくとおびえながら生きていくのが嫌になり、大きな石のてっぺんで、ひなたぼっこを始めました。外の世界に飛び出した力強いバッタの姿が印象に残ります。自由に飛び出していくバッタ、大空を飛んでいくバッタの生命力に心を奪われます。

## 上級編

### わすれられない おくりもの



スーザン・パーレイ / さくえ  
小川 仁央 / やく 評論社

動物たちみんなにしたわれていたアナグマが死を迎え、残された動物たちは、アナグマと過ごしたおだやかなひとときや、教えてもらったことに思いをはせます。会えなくなってしまうことは悲しいけれど、温かな思い出や暮らしの知恵は、かけがえない贈り物として、みんなの心に残ります。のがれがたい運命である死を、やさしく静かに教えてくれる一冊です。

### スイミー



レオ・レオニ / 作  
谷川 俊太郎 / 訳 好学社

スイミーは小さな黒いさかな。ある日、大きなまぐろがやってきて兄弟たちを残らず食べてしまいます。たったひとり逃げのびたスイミーは、出会ったさかなたちと協力してまぐろを追い払う計画を立てます。

「ぼくが、めになるう。」詩人である谷川俊太郎ならではの、短いながらも光りかがやくような訳が印象的な一冊。小さなスイミーの知恵と勇気に胸が熱くなる、大人も子どもも一緒にわくわくしながら読める冒険譚です。

### フランシスのいえで



ラッセル・ホーバン / さく  
リリアン・ホーバン / え  
まつおか きょうこ / やく 好学社

アナグマのフランシスに妹が生まれました。両親が妹のお世話を忙しく構ってもらえなくなったフランシスは、ある夜家出を宣言して台所のテーブルの下に隠れます。妹への焼きもちです。ねているフランシスに対して、両親はユーモアにあふれた愛情深い対応をします。なんとと言っても主人公のフランシスが面白くてかわいいのが魅力です。

パステルカラーで描き出される、やさしくシンプルな絵に心が和みます。これからおねえちゃんやおにいちゃんになる子に。

### よもぎだんご



さとう わきこ / さく 福音館書店

春の野原に咲く野草をばばあちゃんが教えてくれます。取ってきた野草を使って、今度はみんなでお料理。食べられる野草や、それを使った料理の作り方・食べ方も学ぶことができます。植物図鑑のようでもあり、料理本のようでもあり、おばあちゃんの知恵袋が詰まった絵本になっています。

「やってみたい！」と、つい思ってしまう描写がお話の中で上手く展開されています。



ルドウィッヒ・ベームルマンス / 作 画  
瀬田 貞二 / 訳 福音館書店

### マドレーヌといぬ

パリのツタのからまる寄宿学校に12人の女の子がいて、いちばんおちびちゃんがマドレーヌです。1954年にゴールデコット賞を受賞したこの絵本は『げんきなマドレーヌ』の続編になります。原書のタイトルは Madeline's rescue とある通り、マドレーヌがいぬを救う、という内容のおはなしです。いぬを守るためにマドレーヌはがんばります。ベームルマンスの絵もさることながら、瀬田貞二の訳が素晴らしいシリーズです。いぬが好きなお子さんに。



ロバート・フローマン / 原作  
天野 祐吉 / 翻案 あべ弘士 / 絵  
福音館書店

### このよでいちばんはやいのは

この世で一番速いものはなんでしょう？動物だったら？鳥だったら？そして魚だったら？いやいや、音や光でしょう！と、次から次へとより速いものが出てきます。わかりやすい表現に、「そんなに速いんだあ！」とびっくりするのですが、一番最後に、最も速いのは？とあげられるものは、本当に速いし、そして大事なものでした。さて、それはなんでしょう？



ドン＝フリーマン / さく  
まつおか きょうこ / やく 偕成社

### くまのコールテンくん

おもちゃ売り場にいたくまのぬいぐるみのコールテンくんを欲しかったリサですが、お母さんに、ボタンがとれているからダメ。と言われます。そこでコールテンくんは広いデパートの中をボタンを探しにいきますが……。翌日、自分のおこづかいでリサがコールテンくんを買いにきます。「ともだち」って、君みたいな人のこと、というコールテンくんの言葉には、心が温かくなります。



ジュディス・カー / 作  
晴海 耕平 / 訳 童話館出版

### おちやのじかんにきたとら

ソフィーとお母さんがお茶にしようとした時、玄関のベルが鳴りました。ドアをあけるとそこには大きなとら。一緒にお茶をしたいとお願いするとらを出迎える2人でしたが、とらは家にある食べ物をどンドンたいらげてしまい……。突然とらがやってきて、家じゅうの食べ物を食べられてしまうのですが、ソフィーもお母さんもお父さんも平然と解決して平和なうちに物語は終わります。次は自分の家にとらが来るかも！と想像力を働かせて読むことができます。

## 昔話



おざわ としお / 再話  
かないだ えつこ / 絵  
くもん出版

### ねずみのよめいり

ねずみの夫婦がかわいい娘のお婿さんをさがすために「だれがいちばんか」をきいてまわります。要するに「身の丈にあった」結婚相手が一番ですよ、っていうことなのでしょう。おなじみの昔話ですが、かないだえつこの優しい絵柄がとても素敵な一冊です。色合いは地味ですが、はっきりとした絵なので集団への読み聞かせにも適しています。



松居 直 / 文 赤羽 末吉 / 画  
福音館書店

### ももたろう

正義というものは、立場によって変わるということはあるかもしれせん。けれども、小さな子どもは、悪が悪としてこらしめられることによって、安心を得られるものだと思います。いろいろな『桃太郎』がありますが、この絵本は桃太郎が鬼を成敗する理由もわかりやすく、宝物は置いて帰ります。おすすめの昔話絵本です。



平野 直 / 再話 太田 大八 / 画  
福音館書店

### やまなしもぎ

お母さんと三人の息子が仲良く暮らしているのですが、あるとき、お母さんの具合が悪くなります。「おくやまの やまなしが 食べたいな」という願いをかなえるために、まず、一番上の太郎がでかけます。けれども、沼の主にみつかり、食べられてしまいます。つぎに出かけた次郎も帰ってきません。三郎は……。文章には語られていない後日談が裏表紙にあります。母を想う三人の息子たちが愛らしい昔話です。



瀬田 貞二 / 再話 梶山 俊夫 / 画  
福音館書店

### おんちよろちよろ

道にまよった男の子は、親切なおじいさんとおばあさんの家に一晩とめてもらうことになりました。でも、お寺の小僧さんに間違えられているので、仏さまにお経をあげてほしいと頼まれてしまいます。断ることもできず、適当なお経をあげていると、ねずみがちよろちよろでてきて思わず「おんちよろちよろ」などと唱えます。「おんちよろちよろ」という言葉が繰り返され、力強い絵も遠くからでもよくわかり、読み聞かせなどにもおすすめの楽しい一冊です。





マーシャ・ブラウン / え  
せたていじ / やく  
福音館書店

### 三ひきのやぎのからからどん

小さい、中くらい、大きい三ひきのやぎたちは、山に草を食べに行こうとします。でも、途中の谷川にかかる橋のたもとには、大きなトロルが待ち構えてやぎたちを食べようとしています。「だれだ！おれさまの橋をがたびしさせるのは！」とどなられて、小さいやぎは「なに、ぼくですよ。いちばんちびやぎのからからどんです」と答えます。トロルを怖がる子どももいますが、この絵本が大好きという子どもが多いです。



フェリクス・ホフマン / え  
せたていじ / やく  
福音館書店

### おおかみと七ひきのこやぎ

ホフマンの絵に、せたていじの文章のグリム童話です。1967年に初版が出版され、50年以上、愛され続けてきた絵本です。居間にはおとうさんの写真（絵？）が飾られていたり、末の子やぎの足は黒毛になっていたり、ストーリー以外にも楽しめる一冊です。子やぎたちが「おおかみ しんだ！」と叫ぶのが残酷というご意見もあるかもしれませんが、おおかみが死んだからこそ、子やぎたちは安心して眠れるのだと思います。



エウゲーニー・M・ラチョフ / え  
うちだりさこ / やく  
福音館書店

### てぶくろ

森の中でおじさんが落とした手袋でねずみが暮らしはじめます。すると、カエルがやってきて「ぼくもいれて」と住みつきます。そして、次から次へといろいろな動物もこの手袋に住みつきます。おじさんが手袋を落とした時、まだ明るい森の中が、だんだん暗くなっていくさまや、手袋に窓がついたり、階段ができたりするのもおもしろい絵本です。1965年に初版が出て、半世紀以上読み継がれている名作です。



A. トルストイ / 再話  
内田 莉沙子 / 訳 佐藤忠良 / 画  
福音館書店

### おおきなかぶ

おじさんが育てたかぶは、とてつもなく大きいかぶになりました。ある日、おじさんはかぶをぬこうとします。うんとこしょ、どっこいしょ、ところがかぶはぬけません。おじさんはおばあさんを連れて来て、うんとこしょ、どっこいしょ、それでもかぶはぬけません。おばあさんは孫を連れて来て……。シンプルな文章と表情豊かなおじいさんたちの絵が、とても良く合っている本です。

## 図書館のご案内

- ・本を借りるには「図書貸出証」が必要です。
- ・「図書貸出証」は0歳から作成できます。図書館に備え付けの「図書貸出証申込書」に必要事項を記入し、身分証明書（子どもの場合は保険証・こども医療費受給者証など）と一緒にカウンターに提出してください。
- ・図書 10冊と視聴覚資料2点を、2週間借りられます。

## 開館時間

午前9時～午後6時

## 休館日

- ・毎週月曜日（祝日の場合は開館）
- ・第1木曜日（1・5・8月を除く 祝日の場合はその翌日）
- ・年末年始（12月28日～翌1月4日）
- ・特別整理期間（年1回 7日以内）

## 駐車場のご案内

- ・車でご来館の場合、南側に隣接する町営駐車場をご利用ください。
- ・施設利用者の場合、東側入口に設置してある証明用機器で証明を受けると駐車料金が1時間無料になります。（以後は30分毎に100円加算されます）

### 絵本となかよし 図書館員のおすすめの絵本

2020年12月 初版発行

編集・発行：長泉町民図書館

☎ 411-0943 駿東郡長泉町下土狩 1283-11

☎ : 055-988-7801 Fax : 055-988-7802

E-mail : tosyonaigaizumi@ca.thn.ne.jp

長泉町 HP : <http://www.town.nagaizumi.lg.jp/>

